

アグリ | ワーク | ポイント



茶指導販売課 亀山 毅人

秋整枝

翌年の収量と品質は、**充分な着葉量の確保と丁寧な整枝作業**で決まります。整枝の目的は摘採面を整え、翌年の一番茶に古葉や木茎が混入しないようにするためです。平均気温18〜19℃以下になる10月上旬から行い、冬期に寒害を受けやすい地域や樹勢が弱っている茶園は、葉層をなるべく多く保ち、春整枝を行いましう。

なお、秋整枝より春整枝の方が摘採時期が遅くなるため、整枝時期の組み合わせにより、摘採時期の調整ができます。

深さについて

- ・最終芽（三番茶芽）の2〜3枚残した位置で茶層**8cm以上**を確保
- ・最終摘採面（二番茶後の整枝位置）より5〜6cm上で整枝
- ・日差しが強い日は避け、機械の刃回転は速く、進む速度はゆっくり丁寧に実施

病害虫防除

秋整枝が終わると、病害虫防除も終盤を迎えます。秋整枝終了後から年末にかけての防除対象となる害虫は、ハマキ類やカンザワハダニ、ナガチャコガネ、チャトゲコナジラミなどです。地域によって発生度合いに差があるため、茶園をよく観察して必要に応じて防除しましょう。

また、隣接園で秋冬番茶の摘採をしている場合は、防除を自粛するなどドリフトの防止を心掛けてください。防除規制がある地区においては、各地域の指導に従ってください。

赤焼病（10月中旬〜下旬）

秋整枝や台風などの強風によってできた傷口から感染するため、整枝直後に防除を行いましう。幼木園や自然仕立ての茶園などは、風の影響を受けやすいため、防風垣の設置など防風対策を行うと効果的です。

コサイド3000 1000倍 または、
ドイツボルドーA 500倍 など

チャトゲコナジラミ（秋整枝後の10月中旬〜11月上旬）

近年、管内の茶園でも常発しています。すす病が発生しているような多発園では、特に注意が必要です。マシン油で防除することで、すす病を軽減させることができます。

マシン油 50〜100倍